

令和7年(2025年)

2

No.820

The Religion News

宗教新聞

https://www.religion-news.net

発行所 宗教新聞社

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-13-2

電話 03-3353-2940(代)

FAX 03-5363-5182

郵便振替口座 00130-9-22704

©宗教新聞社 2025

購読料	1部	500円
(税込)	半年	3,000円(千共)
	年間	6,000円(千共)

米トランプ大統領就任演説

「信仰と富、自由を国民に取り戻す」

1月20日(米国時間)、米国の第47代大統領にドナルド・トランプ氏が就任した。米国第一主義を掲げ、過激な言動が批判を浴びることも多いが、就任演説では信仰や自由の価値を重視しながら国家的信頼を取り戻すことを強調した。

「神の下の一つの国民、一つの家族」を強調



就任式に先立ってトランプ夫妻は、伝統に則って聖公会の教会で礼拝を捧げた。

その後、トランプ氏は連邦議会議事堂の円形大広間で就任式に臨み、ロバーツ連邦最高裁判官の立ち会いのもと、宣誓を行った。

就任演説でトランプ大統領は、「この日からわが国は再び繁栄し、世界中で尊敬されるようになるだろう。私は米国第一主義を貫く。最優先事項は、誇り高く、繁栄し、自由な国をつくることだ」と述べた。

1月20日、大統領就任式で宣誓するドナルド・トランプ第47代大統領。後ろ姿はジョン・ロバーツ連邦最高裁判官。米ワシントンDCの連邦議会議事堂(EPA時事)

続けて、「今日、政府は信頼の危機に直面している」と指摘。長年にわたる急進的で腐敗した体制によって市民から権力と富が搾取され、社会の支柱が破壊されているが、政府は国内の危機にも、海外の破滅的な出来事にも対応できていないと批判した。さらに、「われわれの公衆衛生システムには世界のどの国よりも多くの予算が費やされているが、災害時に役に立たない。教育では、教師は子供たちが自らを恥じ、自分の国を憎むよう教えている。われわれが必死に子供に愛を与えようとしているにもかかわらず」と従来の方針の問題点を指摘した。

そして、自身が大統領に選ばれたことは「信仰と富、民主主義、そして自由を国民に取り戻すためだ」として、課題に取り組む決意を示した。また、昨年のペンシルベニアでの暗殺未遂に言及し、「米国を再び偉大にするために、私は神に救われた」「だからこそ、私たち愛国者による政権の下、尊厳と権力、強さをもってあらゆる危機に対処するために日々働く。あらゆる人種、宗教、肌の色、信条の市民のために、希望と繁栄、安全、平和を取り戻すために目的意識とスピードをもって行動する」と強調した。

また、この日がキング牧師の記念日(1月の第3月曜日)に当たることにも触れ、「彼の榮譽を称え、彼の夢を実現するために私たちは共に努力する。私たちは祖国を忘れない、憲法を忘れない」と述べた。共和党が昨年まとめた政策綱領「20の約束」でも、7番目の項目で「憲法、権利の章典、基本的自由(言論の自由や信教の自由など)の保護」を謳っている。

トランプ大統領は、就任後に移民対策をはじめ前政権の政策を変更する大統領令に署名しているが、この日の演説では「米国の完全な復興と常識の革命を始める」と常識の範囲で政策を打ち出すと述べ、「法の支配の下で、公正、平等、公平な正義を回復する。そして法と秩序を取り戻す」と訴えた。さらに、「公私のあらゆる場面で人種とジェンダーを社会的に持ち込もうとする政策も終わらせる。白人と有色人種を区別しない、能力主義の社会を築く。政府の公式方針として、性別は男女の二つのみとする」と強調した。多様性、ジェンダーに関する前政権の施策に対しては国民から行き過ぎに反発する声もあがっており、これに応えた形だ。また、自らは平和を構築する者になりたいとして、前日に中東で人質が家族の元に戻り始めたことを喜び、米国も最も尊敬される国としての地位を取り戻すと述べた。

続いて建国の歴史にも言及し、「米国民は、未開の荒野を何千キロも突き進んだ。砂漠を横断し、山を越え、多くの危険に立ち向かった。奴隷制度を終わらせ、何百万もの人々を庄政から救い出し、何十億もの人々を貧困から救い出した。わが国は権利と自由のために全てを捧げた何世代にもわたる愛国者たちによって築かれてきた」と述べた。(2面に続く)

天災
1月は、能登半島地震から1年、阪神淡路大震災から30年が経過し、被災地の様子が多く報道された。改めて被災者のご苦勞に思いを馳せ、犠牲になられた方のために祈られた人も多かったと思う▼来月には東日本大震災から14年を迎える。地震発生時に東京郊外の出先にいた天地子は5時間かけて社に戻ったが、甚大な被害の映像に衝撃を受けた▼東日本大震災でもう一つ思い出すことがある。米FOXニュースが伝えた「日本人の祈り」だ。自分たちを世俗的だと思っている日本人が、被災した町を前に、連絡がとれない人、愛する人のため祈っている、とニュースは伝えている。そして、教会などに属していなくても日本人には信仰があるとも述べた。地震発生時に日本にいた一人の米国人学者は「困難な状況にストイックに立ち向かい、慈悲の心で共同体として行動する人々」に日本の宗教的対応を見たという▼その後、宗派を超えた合同の復興祈願祭も度々行われ、犠牲者の追悼や遺族のケアにあたる宗教者の制度も始まっている。